

《担当者名》 澤田篤史 泉唯史 多田菊代

【概要】

呼吸器疾患、循環器疾患、代謝障害系疾患など内部障害系疾患の基礎的病理や疾患概念、さらにそれらの疾患に罹患した対象者の障害像を理解する。また、内部障害系の各種疾患における理学療法評価と障害に対するリハビリテーションアプローチを学修する。

【学修目標】

一般目標

内部障害を構成する疾患・障害について各々の具体的特徴とその理学療法評価、アプローチ、リスクマネジメントを理解する。

行動目標

1. 循環器疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
2. 呼吸器疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
3. 代謝疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
4. 腎疾患・障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。
5. がんリハビリテーションの目的と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内部障害理学療法学概論	・疫学、理学療法の目的	澤田篤史
2	呼吸リハビリテーションの概要	・呼吸リハビリテーションの目的 ・呼吸リハビリテーションの効果とBM	澤田篤史
3	呼吸リハビリテーションにおける評価	・呼吸リハビリテーションプログラム立案に必要な評価 ・各種検査データ・画像所見のみかた	澤田篤史
4	呼吸リハビリテーションにおける評価	・呼吸リハビリテーションにおけるフィジカルアセスメント ・呼吸器疾患に対するADL・QOL評価	多田菊代
5	呼吸器系疾患の症候学	・COPDによる呼吸不全の病態生理	澤田篤史
6	呼吸器系疾患の症候学	・COPDに対する理学療法評価 ・COPDに対するリハビリテーション・アプローチ	澤田篤史
7	呼吸器系疾患の症候学	・肺炎による呼吸不全の病態生理 ・肺炎に対する理学療法評価 ・肺炎に対するリハビリテーション・アプローチ	澤田篤史
8	呼吸器系疾患の症候学	・開胸・開腹術後の急性呼吸不全 ・急性呼吸不全に対するリハビリテーション・アプローチ	澤田篤史
9	循環器疾患理学療法のオリエンテーション 循環器の構造としくみ	・心臓および脈管系の理学療法の概要と今日的意義 ・循環器系の構造と機能 特に酸素搬送系の理解と確認 ・心電図の判読	泉 唯史
10	運動生理と運動処方	・運動時の生体反応、特に運動負荷試験と呼吸循環応答 ・生体反応の情報に基づく運動処方	泉 唯史
11	心不全と理学療法評価	・心不全の病態と評価 ・心不全に対する治療 ・心不全に対する理学療法	泉 唯史
12	虚血性心疾患	・虚血性心疾患の病態と評価 ・虚血性心疾患に対する治療 ・虚血性心疾患に対する理学療法	泉 唯史
13	弁疾患および大血管疾患	・弁疾患および大血管疾患の病態と評価	泉 唯史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 弁疾患および大血管疾患に対する治療 ・ 弁疾患および大血管疾患に対する理学療法 	
14	末梢循環障害	<ul style="list-style-type: none"> ・ 末梢循環障害の病態と評価 ・ 末梢循環障害に対する治療 ・ 末梢循環障害に対する理学療法 	泉 唯史
15	回復期・生活維持期のリハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 循環器疾患の回復期および生活維持期のリハビリテーション 	泉 唯史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験70% 授業内確認テスト30%

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【教科書】

解良武士、椿淳裕編 「Crosslink 理学療法学テキスト内部障害理学療法学」 MEDICAL VIEW 2019年

松永篤彦 編 「運動療法エビデンスレビュー -臨床・研究に役立つ評価指標・基準値・介入のエビデンスをこの一冊に凝縮-」 文光堂 2018年

【参考書】

本間生夫 監修 「呼吸リハビリテーションの理論と技術 改訂第2版」メジカルビュー社 2014年

弦間昭彦 編 「最新ガイドラインに基づく 呼吸器疾患 診療指針 2021-'22」総合医学社 2020年

日本呼吸器学会COPDガイドライン第5版作成委員会編 「COPD（慢性閉塞性肺疾患）診断と治療のためのガイドライン2018[第5版]」メディカルレビュー社 2018年

佐藤幸人 著 「心不全の基礎知識100第2版」文光堂 2019年

斉藤秀之 編 「極める循環器理学療法」 文光堂 2020年

上月正博 編 「重複障害のリハビリテーション実践マニュアル 27症例から学ぶ多臓器障害者のリハビリテーション」 医歯薬出版 2020年

安達仁 編 「CPX・運動療法ハンドブック 改訂4版 心臓リハビリテーションのリアルワールド」 中外医学社 2019年

後藤葉一 編 「国循 心臓リハビリテーション実践マニュアル」メディカ出版 2017年

居村茂幸 編 「ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版～カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ」 羊土社 2015年

田屋雅信 編 「リハに役立つ検査値の読み方・とらえ方」羊土社 2018年

山下武志 監修 「The 心臓リハビリテーション 症例で紐解く超実践ガイド」金芳堂 2020年

美津島隆 監修 「リハビリテーションに活かす呼吸・循環モニタリング モニター心電図から生体情報を読み解く」 メジカルビュー社 2019年

【学修の準備】

1. この授業は、2年生までの解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学修の準備としては毎回の授業に合わせて十分復習をしてから講義に臨むこと（80分）。
2. 授業の冒頭でその日の授業内容に関する確認テストを行うため、十分な予習をして講義に臨むこと（80分）。
3. 復習は授業資料だけではなく、教科書や参考書を活用して毎回の授業に関連する内容を十分理解すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）、泉唯史（理学療法士）、多田菊代（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

内部障害領域での理学療法士としての実務経験を通して得た知識・技術等を活用し、実践的な教育を行う。